

消化器センター

『消化器センター内科』

役職：消化器センター内科部長

氏名：八隅秀二郎「専門領域：消化器内科、特に胆膵領域の治療」

資格：京都大学医学博士、京都大学医学部臨床教授、関西医科大学臨床教授、日本内科学会 認定医、日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員、日本消化器病学会 専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員、日本がん治療認定医機構 暫定教育医・がん治療認定医

役職：消化器センター内科副部長

氏名：川口清隆「専門領域：消化器内科、特に肝癌の診断と治療」

資格：日本内科学会 認定医・専門医・指導医、日本消化器病学会 専門医、日本肝臓学会 専門医

役職：消化器センター内科副部長

氏名：福永豊和「専門領域：消化器内科、特に肝細胞癌の診断と治療」

資格：日本内科学会 認定医、日本消化器病学会 専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医、日本肝臓学会 専門医、日本超音波医学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科副部長

氏名：浅田全範「専門領域：消化器内科、特に胆膵疾患の診断と治療」

資格：京都大学医学博士、日本内科学会 認定医、日本消化器病学会 専門医・指導医・近畿支部評議員、日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、日本肝臓学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科副部長（平成 23 年 3 月まで海外留学中）

氏名：大橋真也「専門領域：消化器内科、特に消化管の内視鏡の診断と治療」

資格：京都大学医学博士、日本内科学会 認定医、日本消化器病学会 専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医

役職：消化器センター内科副部長

氏名：高 忠之「専門領域：消化器内科、特に消化器癌の診断と治療」

資格：京都大学医学博士、日本内科学会 認定医・専門医・指導医、日本消化器病学会 専門医、日本消化器内視鏡学会 専門医、日本肝臓学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科副部長

氏名：吉野琢哉「専門領域：炎症性腸疾患（IBD）」

資格：日本内科学会 認定医

役職：消化器センター内科副部長（平成 23 年 3 月末退職）

氏名：杉浦 寧「専門領域：消化器内科、特に消化管の内視鏡の診断と治療」

資格：日本内科学会 認定医、日本消化器内視鏡学会 専門医、日本消化器病学会 専門医

役職：消化器センター内科医員

氏名：藤田光一「専門領域：消化器内科、胆膵疾患の診療」

資格：日本内科学会 認定医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科医員

氏名：山内淳嗣「専門領域：消化器内科一般」

資格：日本内科学会 認定医

役職：消化器センター内科医員

氏名：小田弥生「専門領域：消化器内科一般」

資格：日本内科学会 認定医、日本消化器病学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科医員

氏名：工藤寧「専門領域：消化器内科一般」

資格：日本内科学会 認定医

役職：消化器センター内科医員

氏名：加藤洋子「専門領域：消化器内科一般」

資格：日本内科学会 認定医、日本消化器病学会 専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科医員

氏名：熊谷奈苗「専門領域：消化器内科一般」

役職：消化器センター内科レジデント

氏名：佐久間洋二郎、渡辺昌樹、西川義浩、廣橋研志郎（平成 22 年 4 月着任）、牟田優（平成 22 年 4 月着任）

II. 診療・治療の特徴

【はじめに】

平成 22 年度は消化器センター内科としてスタッフ 13 名、レジデント 5 名の合計 18 名でスタートしました。年間 10,824 件の内視鏡検査を行い少しずつですが年々増加傾向にあります（詳細はクリニカルインジケータを参照してください。）

当院では、吐下血に対する緊急内視鏡だけでなく、胆道系の内視鏡的処置および肝疾患に対しても 24 時間体制で対応することを心がけています。特に、当院へ通院中の癌患者が安心して外来治療を継続できるように、癌に対する治療および緊急時の受入れ体制は言うまでもなく、在宅を中心に癌と戦っていくための環境づくり（介護保険の申請など地域連携を通じた看護サポート体制作り）も非常に大事なものと考えております。

また、当院は教育機関でもあり、将来消化器内科専門医を目指す医師を効率良く育てる為に、レジデントに対して各手技（US, EGD, CS, Angio, EUS, ERCP, ダブルバルーン、カプセル内視鏡）に対する修練度表を作成し、3-6 ヶ月ごとにチェックする事で個々に応じて指導しています。経験すべき手技が多く、より効率的に習得できるように各専門分野の責

任者が各手技に対して作成したマニュアルに従って指導するようにしています。今後は、より高い臨床技術を提供するために各種技術習得の教育方法の確立、臨床研究に即したデータベースの構築を軸に臨床を行って行きたいと考えています。

臨床研究としては、学会活動として国内で年間 97 演題を発表し、海外ではスペイン（バルセロナ）で開催された欧州消化器病学会で 2 演題（ポスター）の発表を行ないました。英文論文は留学中の大橋先生の活躍もあり 12 本が英文誌に掲載されました。以下に各部門の活動状況の年報を記載します。

【消化管部門】

○ 上部消化管（食道および胃）

年間 7,100 件の上部消化管内視鏡検査を施行しており、人間ドックなどスクリーニング検査に対しては経鼻内視鏡にてより苦痛の少ない検査を、食道癌、胃癌の精密検査には色素内視鏡、NBI 拡大内視鏡にて正確な深達度診断および範囲診断を心がけています。特に食道表在癌および早期胃癌については NBI 導入後に EMR 適応病変の発見率が上昇し、上部 ESD 件数が 82 件と増加しました。適応拡大病変においても適応病変と同等の治療成績を示しこれらの病変に対しても積極的に ESD を行っています (JGES2010 で発表)。

また、切除不能・再発胃癌に対する化学療法にも力を注いでいます。全身状態の良い患者様ではティーエスワン+シスプラチン療法を一次治療とし、二次治療にはイリノテカン・パクリタキセルなどの薬剤を組み合わせた治療を行っています。当科での切除不能胃癌に対する化学療法における生存期間中央値 (MST) は 11.5 ヶ月でした。

新しい試みとしては、1) 耳鼻咽喉科および 2) 消化器外科と共同で行なう手術をそれぞれ開始しました。前者では、NBI による咽頭領域の観察も積極的に行なうようになった結果、中下咽頭領域の表在癌症例が増えてきており、耳鼻咽喉科と共同で中下咽頭領域表在癌の切除を行ない始めました。

後者では、胃内腔突出型の GIST に対して、ESD の技術を活用した内視鏡補助下腹腔鏡下胃部分切除 (Laparoscopy Endoscopy Combined Surgery; LECS) を 7 件、外科と合同で行ないました。(JDDW2009、2010 で発表)

食道がん	18 件
内視鏡的切除	10 件
放射線化学療法 (新規導入)	7 件
BSC (best supportive care)	1 件
胃がん	83 件
内視鏡的切除	62 件
化学療法 (新規導入)	15 件
BSC	6 件

○ 小腸

平成 22 年度はダブルバルーン小腸内視鏡検査 27 件、カプセル内視鏡検査 31 件を施行しました。カプセル内視鏡検査を 2007 年 11 月より導入し、従来の検査法では診断不可能であった小腸病変の診断に役立っています。十二指腸乳頭部腫瘍については、内視鏡的切除 (パピレクトミー) を積極的に行って射します。

小腸がん (十二指腸乳頭部がんを含む)	
内科もしくは外科的切除	3 例
化学療法	1 件
BSC	0 件

○ 大腸

年間 2,680 件の下部消化管内視鏡を行っており、色素内視鏡、拡大内視鏡検査(NBI、クリスタルバイオレット染色)で大腸腫瘍性病変の診断、および sm 深部浸潤癌の診断を行なっています (JDDW2008 で発表)。通常の EMR 等では一括切除が不可能な病変 (LST など) に対しては ESD も行っており (JDDW2009 で発表)、2010 年 5 月より高度先進医療として開始しております。また、進行大腸癌に対する化学療法では分子標的治療薬 (アバスタチン・アービタックス・ベクティビックス) も積極的に導入しています。

大腸がん	111 件
早期大腸がん	94 件 (うち ESD 8 件)
化学療法 (新規導入)	8 件
BSC	9 件

○ 緊急内視鏡

24 時間体制で緊急内視鏡の受け入れをしており、平成 22 年度の緊急内視鏡の総数は 371 件でした。そのうち止血処置を行った症例は 76 件で、止血法は局注法や熱凝固法、クリップ法を併用で行っています。ほぼ全ての症例で内視鏡的に治療を完結できております。

○ PEG 造設および交換

年間 23 件の新規造設を施行しました。平成 20 年度より、より重篤な合併症が少ないと考えられる腹壁固定を追加した direct 法を積極的に施行するようにしました (JDDW2009、内視鏡学会総会 2010 で発表)。また、PEG の造設前の検査、造設後の管理など院内統一したパスをつくり、どの科でも対応可能な体制を今年度中に整える予定としています。

【肝臓部門】

平成 22 年は年間 96 例に経皮的穿刺治療 (経皮的エタノール注入療法 (PEIT)、ラジオ波焼灼療法 (RFA)) を施行しました。適応は原則 Stage 1 では RFA 単独治療を第一選択、それを超えるものについても侵襲度、治療効果、合併症を勘案し TAE を併用しながら 3cm 3 個程度までは適応としています。通常の B モードのみでは腫瘍の同定が困難な場合 (再生結節・dysplastic nodule が多発した状態、肝動脈塞栓療法 (TAE)・RFA の治療痕近傍に再発した場合など) では超音波造影剤 (ソナゾイド) を用いて、腫瘍の viability の確認には血管相による腫瘍濃染を、存在部位の確認には実質相を用い、造影後ただちに RFA 治療を行っています。マイクロコンベックスプローブと人工胸水の併用により横隔膜直下の病変も描出が比較的容易となり、ほとんどの症例で 1 回の治療セッションで十分な治療域を確保しています。これまでのところ一過性の発熱・肝機能障害の他は大きい合併症は経験しておりません。転移性肝腫瘍については学会レベルでの十分なコンセンサスはありませんが、原発巣がコントロールされ 2cm 以下程度のものについてはインフォームドコンセントのうえで RFA を施行しています。開腹手術症例でも必要な症例では術中に造影超音波検査を施行し、切除範囲外にある小病変については術中に RFA を施行しています。

TACE は 169 例に施行しました。抗がん剤は first line はエピルビシン、マイトマイシンの併用、second line は平成 22 年 3 月からミリプラチンを使用し、症例によりシスプラチンを使用しています。TACE の効果が十分でないとは判断した場合にはリザーブ留置を行い持続動注療法に移行しています。さらに肝外転移が出現した場合には全身状態・肝予備能を考慮し分子標的薬ソラフェニブ (ネクサバル TM) を投与しています。

発がんを予防するという観点からも、B 型・C 型のウイルス性肝炎の治療は重要で、近年の核酸アナログ、ペグインターフェロン治療は大きく歴史を変えつつあります。当院での B 型肝炎に対する核酸アナログ投与例は 202 例で 90% 以上の case で非活動性の状態でコント

ロールされています（JDDW2009 で発表）。C 型肝炎の PEG インターフェロン治療症例は 319 例で難治例に対して 72 週治療を早期から導入した結果、高齢者が多いにもかかわらず 50% の奏功率が得られています（JDDW2010 で発表）。

【胆膵部門】

平成 22 年度は ERCP 352 件、経皮的胆道処置（PTCD など）84 件、超音波内視鏡検査（EUS）396 件、Interventional EUS 51 件を行いました。

内視鏡は JF-260V, TJF-260V, TJF-M20/CHF-B260 および経皮的胆道鏡 CHF-BP30 を備えており、ほとんどの膵胆道系精密検査および処置に対応可能です。また、ダブルバルーン内視鏡 EN-450T5/W を応用することで従来では処置困難であった Roux-en-Y 再建術後の総胆管結石症例、胆道狭窄症例についても治療を行っています。切除不能肝門部胆管がんや膵頭部がんに対して内視鏡的胆管金属ステント留置術（年間 20 件）を行っています。その他、慢性膵炎に伴う膵石の症例では ESWL（年間 9 例）を行い、内視鏡的膵管口切開術および膵管ステント留置などの内視鏡的治療を併用することで良好な治療効果を得ています。

EUS については GF-UE260-AL5（電子 radial 型）、EG-250US（convex 型）を備えており、目的に応じて使い分けています。Interventional EUS のうち超音波内視鏡下生検法（EUS-FNA）は 41 件（膵腫瘍 23 例、消化管粘膜下腫瘍 9 例、腹腔内腫瘍・リンパ節 5 例、縦隔腫瘍・リンパ節 3 例、後腹膜線維症 1 例）に行いました。特に、切除不能膵がんの確定診断法には EUS-FNA を第一選択としたことで、速やかな治療方針の決定と治療の開始が可能となりました。他科からの依頼で、縦隔及び腹腔内リンパ節の EUS-FNA も積極的に行い、診断・臨床病期の決定に役立っています。また、急性膵炎や術後膵液瘻などによる仮性嚢胞に対しては EUS-CD（EUS ガイド下仮性膵嚢胞ドレナージ、年間 7 例）で対処しています。その他、PTCD 不能かつ経乳頭的胆管ドレナージの不可能な悪性閉塞性黄疸症例に対しては EUS-BD（EUS ガイド下胆道ドレナージ術、年間 1 例）、がん性疼痛に対しては EUS-CPN/CPB（EUS ガイド下腹腔神経叢ブロック、年間 2 例）で対応するなど、最新の治療法を提供できるように努力しています。

胆膵悪性疾患のうち膵がん患者は 38 名（化学放射線療法；4 名、化学療法；15 名、BSC (best supportive care)；9 名、手術；10 名）、胆道がん患者は 24 名（化学放射線療法；1 名、化学療法；11 名、BSC；1 名、手術；8 名）が入院となりました。臨床病期を決定した後に外科との消化器センターカンファレンスで最終的な治療方針を決定し、適切な治療を行っています。また、手術で切除された臓器の膵管や胆道造影を行い、これを最終病理診断と対比して検討することで、画像診断能力の向上に努めています。

【炎症性腸疾患（IBD）部門】

潰瘍性大腸炎、クローン病に最新の治療を行っています。潰瘍性大腸炎の増悪因子であるサイトメガロウイルス感染が注目されており、京都大学医学部附属病院では、大腸粘膜生検組織を用いた real-time PCR 法にてより、サイトメガロウイルス感染を早期診断し、治療方針の決定に非常に有効であることを報告してきました。当院でもこの検査法を導入し始めております。ステロイド依存型、ステロイド抵抗型の難治性潰瘍性大腸炎に対し、白血球除去療法のほか、免疫抑制剤（タクロリムス）、最近保険適応された抗 TNF- α 抗体などの治療法を用い、大腸全摘術を回避するよう努めております。一方、クローン病については日本独特の厳格な栄養療法ではなく、免疫抑制剤、抗 TNF- α 抗体を積極的に用い、できる限り日常生活を続けながら外来で治療できる体制をとっています。多数の臨床治験も担当し、最新の情報を提供しています。

最近の国内外の報告によると、炎症性腸疾患の臨床症状の改善を図るだけでなく、粘膜治癒が非常に重要であると報告されています。そのため当院では、大腸内視鏡だけでなく小腸ダブルバルーン内視鏡を用いて病変の活動性評価を行い、治療方針を決定しております。

Ⅲ. 研究

① 主催研究会

第1回扇町超音波内視鏡カンファレンス (2010/12/4 ; きたのホール)

第2回扇町超音波内視鏡カンファレンス (2011/3/5 ; きたのホール)

第2回消化器病教室 (2010/ 7/ 3 ; きたのホール)

第3回消化器病教室 (2011/ 2/26 ; きたのホール)

『消化器センター外科』

役職： 消化器センター長・消化器センター外科部長

氏名： 尾崎信弘 「専門領域：消化器外科全般、特に肝胆膵外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医、日本臨床腫瘍学会 暫定指導医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器センター外科部長

氏名： 寺嶋宏明 「専門領域：肝胆膵外科、消化器外科」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 指導医・専門医・認定医、日本消化器外科学会 指導医・専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会 評議員、日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器センター外科副部長 (平成23年3月末退職)

氏名： 橋田裕毅 「専門領域：消化管外科、特に結腸・直腸外科・膵臓外科・腫瘍外科」

資格： 京都大学医学博士、愛媛大学医学部非常勤講師、日本外科学会 専門医・指導医、日本消化器外科学会 専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本消化器病学会 指導医・専門医、日本消化器病学会 近畿支部評議員、近畿外科学会 評議員、日本消化管学会 評議員、日本消化管学会 胃腸科認定医、日本癌治療学会 臨床試験登録医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本内視鏡外科学会 技術認定医

役職： 消化器センター外科副部長

氏名： 上田修吾 「専門領域：消化管外科、特に胃外科・食道外科・癌化学療法」

資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医、日本消化器外科学会 専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本がん治療認定医機構 暫定教育医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本食道学会 食道科認定医

役職： 消化器センター外科副部長

氏名： 野村明成 「専門領域：消化管外科、特に結腸・直腸外科」

資格： 日本外科学会 認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会 専門医、日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医、日本内視鏡外科学会 技術認定医、近畿外科学会 評議員

役職： 消化器センター外科医員
氏名： 吉富摩美 「専門領域：消化器外科、肝胆膵外科」
資格： 京都大学医学博士、日本外科学会 専門医

役職： 消化器センター外科医員（平成 23 年 3 月末退職）
氏名： 吉田昌弘 「専門領域：消化器外科、一般外科」
資格： 日本外科学会 専門医

役職： 消化器センター外科医員（平成 23 年 3 月末退職）
氏名： 吉村弥緒 「専門領域：消化器外科、一般外科」
資格： 日本外科学会 専門医

役職： 消化器センター外科医員
氏名： 門野賢太郎 「専門領域：消化器外科、一般外科」
資格： 日本外科学会 専門医

役職： 消化器センター外科シニアレジデント
氏名： 井上善景

II. 診療・治療の特徴

☆ 消化器センター外科の特色

医学研究所が設立母体である当院は科学的根拠に基づき、患者に最適かつ最良の治療方法を見つけだし、治療にあたることを理念とし医療を行っている。06年より従来の消化器内科と外科を統合し発足した消化器センターにおいても消化器癌の治療に際し、最新の研究成果・知見をいかに臨床に導入すべきかを検討しつつ、効率のよい集学的治療を目指している。ともすると敬遠されがちな再発癌への対応としては初期治療のみならず、嚴重な術後フォローアップに力を入れ、早期診断、治療への新しい取り組みに努めている。年間の全手術数は約 750 件（全身麻酔症例が約 500 件）である。

食道癌

年間手術症例は 10～15 例。ごく早期の癌に内視鏡的粘膜切除を行う以外は、開胸・開腹手術を標準術式としている。進行食道癌に対しては術前化学療法を積極的に施行、良好な成績が得られつつある。近年の低侵襲手術の必要性を鑑み、開腹操作は腹腔鏡補助下、開胸操作は VATS の低侵襲手術を導入している。術後は必要に応じて放射線療法を併用している。早期癌といえども予後不良な食道癌に対しては、徹底した集学的治療が必要と考えている

胃癌

年間手術症例は 70～80 例。早期胃癌については進行度に応じて、「内視鏡的粘膜切除術（EMR）」または「腹腔鏡補助下胃切除（LADG/LAPG/LATG）+D1+・ or ・リンパ節郭清」を選択する。なお病変部が胃体上部にある場合には「噴門側胃切除術（double tract 再建または食道残胃吻合）」を積極的に行っているが、術後の QOL および癌の根治性に関しても満足のいく結果を得ている。

通常の進行胃癌に対しては、幽門側胃切除または胃全摘+D2 リンパ節郭清を標準術式としているが、高度進行胃癌（高度リンパ節転移例、スキルス胃癌など）に対しては、試験腹腔鏡で病変を正確に評価した上で、CDDP+S-1 による術前化学療法を1~2ヶ月施行した後に、根治術を施行する治療戦略を施行し、良好な成績を得つつある。

大腸癌

年間手術症例は140~150例。結腸癌の早期癌に対しては、消化器センター内科において内視鏡的切除術を第一選択として行っている。手術適応症例に対しては腹腔鏡補助下大腸切除手術（年間70~80例）を原則としている。高度進行例でも根治性が期待できる切除可能進行癌においては、徹底したリンパ節郭清・隣接臓器合併切除を積極的に行っている。直腸癌では術後のQOLを考慮し、できる限り肛門温存、自律神経温存に努めている。大腸癌の大きな予後規定因子である肝転移に対しては積極的な肝切除を行っているが、同時性肝転移症例（切除可能）については、原発巣切除後にmFOLFOX6の全身化学療法を約3ヶ月行い、その後に肝転移巣を切除する臨床試験を実施しており、治療成績を検討中である。また、切除不能肝転移症例に対しても、全身化学療法により肝転移巣をdown-sizingさせた後に、原発巣と肝転移巣を切除する、新たな治療戦略を導入している。肝切除後の再発防止や切除不能進行再発症例に対しては、FOLFOX/FORFILIの抗癌剤にBevacizumabやCetuximabなどの分子標的治療薬を加える最新の全身化学療法を施行している。

肝癌

年間手術症例は約30例。肝細胞癌は、腫瘍因子（個数、位置、局在）と肝機能の総合的評価により治療法が選択・決定される。当科では、肝機能が良好（肝障害AまたはB）で単発または2-3個までであれば、積極的に切除を行っている。また、肝細胞癌は慢性肝障害（HBV感染、HCV感染）がベースにあるため高頻度に再発する疾患であるが、消化器内科との協力の下、術後は厳重なフォローアップを行っており、早期に再発を診断した上で、経肝動脈塞栓術（TACE）や経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）などの治療を実践している。また、症例によっては再切除も考慮している。再発予防については、HCV陽性患者に対しては、術後の2次再発予防目的でのインターフェロン治療も行っている。一方、転移性肝癌（大腸癌由来）については、切除可能症例については積極的な肝切除を行っているが、切除不能症例でも、mFOLFOX6（症例によってはBevacizumabやCetuximabを併用）の全身化学療法によって腫瘍が縮小化した場合には、切除の対象としている。

膵胆道癌

年間手術症例は約30例。膵癌については、画像診断（MDCT, DWI-MRI, FDG-PETなど）や内視鏡的診断（EUS, EUS-FNA）の進歩により2cm以下のT1症例の診断が可能となり、Stage I/II症例では、5年生存率60%以上の成績を挙げている。進行膵癌については、拡大リンパ節郭清の意義が疑問視されているが、当科では神経叢郭清を含めた徹底したD2リンパ節郭清を行い、門脈合併切除も積極的に行っている。また術後補助化学療法（GemcitabineやS-1）を追加することで治療成績向上を目指している。一方、切除不能進行膵癌に対しては、病変の状況により（局所進行か遠隔転移か）、全身化学療法（Gemcitabine単独、S-1単独、Gemcitabine+S-1など）や放射線療法、放射線化学療法を選択しているが、症例によっては動脈血行改変（癌病変への血流を単一化する）を伴う動注化学療法を適用し、比較的良好な治療成績を得ている。胆管癌については、血管浸潤例を含めて外科的切除を原則としており、中・下部胆管癌には膵頭十二指腸切除、肝門部・上部胆管癌には肝切除+胆道再建を基本術式としている。

縮小手術（胆管切除+胆道再建+リンパ節郭清）は、非常に早期の胆管癌や超高齢や合併症を有する risk の高い症例に対してのみ行っている。

胆嚢癌については、壁深達度に応じて、m 癌は単純胆摘（全層）、mp 癌は胆摘+リンパ節郭清、ss 癌は肝床切除+リンパ節郭清（+胆道再建）、se 癌以上では肝切除（S4a+S5 切除または右肝切除）+胆道再建+リンパ節郭清、を基本術式としている。

胆道癌で葉切除以上の肝切除が必要でかつ残肝容量が少ない場合には、術前門脈塞栓術（経皮経肝的アプローチまたは経回腸静脈的アプローチ）を行い、残肝肥大を得た上での安全な手術を実施している。

その他

胆石症は年間 130～150 例（腹腔鏡下切除は約 100 例）、ヘルニアは年間 120～130 例（鼠径ヘルニアでは Kugel 法（後方アプローチ）を基本術式としている）。

医療設備：MRI、CT、造影超音波診断装置、血管造影装置、RFA（ラジオ波焼灼装置）、腹腔鏡手術装置、超音波外科吸引装置（CUSA）、VIO

Ⅲ. 研究

① 主催研究会

☆北野病院消化器センターK2-Net：

第2回 2010/9/16(木) 19:00-21:00 ザ・リッツ・カールトン大阪 3F パーラールーム

第3回 2011/1/27(木) 19:00-21:00 ホテルグランヴィア大阪 20F 桜

☆北野病院・関西電力病院消化器外科合同カンファレンス

第4回 2010/10/21(木) 18:30-21:00 北野病院 14F 143 会議室

第5回 2011/3/10(木) 18:30-21:00 北野病院 14F 143 会議室

② 研究活動内容；文部科学省・その他団体

☆橋田裕毅<基盤研究(C) 一般 20591599 消化器外科学 平成 20～22 年度>
SOX ファミリーによる Wnt シグナルを介した大腸癌進展の制御と臨床応用

☆上田修吾<基盤研究(C) 一般 20591584 消化器外科学 平成 20～22 年度>
消化器癌化学療法とがんワクチン療法におけるストレス誘導蛋白発現の意義

③ 共同研究施設（外科）

☆ 京都大学医学部 肝胆膵移植外科

☆ 京都大学医学部 消化管外科学

☆ 三重大学医学部 遺伝子・免疫細胞治療学

④ 臨床試験（外科）

（△平成 22 年度 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費補助金 継続課題）

1. MAG-E-A4 抗原を発現する難治性悪性腫瘍に対する CHP-MAGE-A4 がんワクチン臨床試験（がんワクチン臨床試験 CHP-MAGE-A4）（上田修吾）

2. 難治性食道癌患者を対象とした IMF-001 臨床第 I 相試験 (がんワクチン IMF-001 治験 C HP-NY-ESO-1) (上田修吾)
3. 癌特異的抗原受容体改変 T 細胞の輸注とがんワクチンによる複合的がん免疫療法の研究開発 (NEDO プロジェクト) (上田修吾)
4. 進行・再発胃癌における TS-1/CDDP 療法の効果予測因子に関する探索的検討: FDA (52 種類の Focused DNA array) を用いた個別化治療の可能性についての探索的検討 (上田修吾)
5. △消化器癌化学療法とがんワクチン療法におけるストレス誘導蛋白発現の意義 (文部科学省科学研究費補助金) (上田修吾)
6. 噴門側胃切除術後の食欲不振に対する六君子湯の有効性評価: アシルグレリンを指標とする探索的検討 (上田修吾)
7. Stage III 胃癌に対する術前ティーエスワン+シスプラチン併用化学療法の第 II 相臨床試験 (上田修吾、尾崎信弘)
8. 初回 TS-1 療法に抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法: CPT 単独療法 vs TS-1+CPT-11 併用化学療法の無作為化比較第 II/III 相臨床試験 (JACCRO GC-05) (上田修吾)
9. TS-1 単独または TS-1/CDDP 併用治療に抵抗性となった進行・再発胃癌に対する二次治療の無作為化第 II 相臨床試験 (OGSG 0701) (上田修吾)
10. 進行・再発胃癌症例における TS-1+CDDP+PTX 併用化学療法 第 I/II 相臨床試験」 (OGSG 0703) (上田修吾)
11. Stage IIIA、III B 胃癌に対する術後補助化学療法としての S-1+CPT-11 併用化学療法の第 II 相臨床試験: Feasibility に関する検討 (OGSG 0801) (上田修吾)
12. 高齢者進行・再発胃癌症例に対する TS-1+ドセタキセル (DTX) 併用化学療法の第 II 相臨床試験 (OGSG 0902) (上田修吾)
13. 胃全摘術施行患者に対する術前免疫増強栄養食品投与の効果に関する無作為比較試験 (OGSG 0507) (上田修吾)
14. 胃切除術式と胃術後障害に関する実態調査 (上田修吾)
15. UGT1A1 遺伝子多型に基づく CPT-1 based regimens の有効性・安全性に影響を及ぼす因子に関する検討 (橋田裕毅、上田修吾)
16. △SOX ファミリーによる Wnt シグナルを介した大腸癌進展の制御と臨床応用 (科学研究費取得課題) (橋田裕毅)
17. microRNA を介した大腸癌に対するワクチン療法の開発 (橋田裕毅)
18. 炎症性腸疾患に対する腹腔鏡下手術の有用性の検討 (橋田裕毅)
19. 切除可能大腸癌肝転移症例に対する mFOLFOX6 療法: feasibility study (寺嶋宏明、多田正晴)
20. 消化管間質腫瘍 (GIST) 患者を対象としたイマチニブによる術後補助療法の 1 年間投与と 6 ヶ月投与のランダム化第 II 相試験 (吉田昌弘、上田修吾)
21. 大型の胃 GIST に対する術前イマチニブ療法の日韓共同第 II 相試験 (吉田昌弘、上田修吾)
22. 大腸癌患者における抗癌剤効果予測因子の mRNA 発現分布調査 (多田正晴、橋田裕毅)
23. Stage III (Dukes C) 結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのカペシタビンの至摘投与期間に関するランダム化 III 相比較臨床試験 (JMFC37) (橋田裕毅、野村明成)
24. 術後補助化学療法におけるフッ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験 (治癒切除直腸癌に対する UFT 療法と TS-1 療法との比較検討) (ACTS-RC) (橋田裕毅、野村明成)

25. Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究（第III相臨床試験）、及び Stage II 大腸癌に対する分子生物学・病理学的マーカーによる再発 high-risk 群とフッ化ピリミジン感受性群の選択に関する研究（SACURA）（橋田裕毅、野村明成）
26. FOLFOX 療法に起因する末梢神経症状に対する牛車腎気丸の有効性を検討する二重盲検無作為化比較第II相臨床試験（GONE）（橋田裕毅、野村明成）
27. 切除不能大腸癌に対する 5-FU/l-LV/oxaliplatin (FOLFOX) + bevacizumab と TS-1/oxaliplatin (SOX) + bevacizumab とのランダム化比較第III相試験（SOFT）（橋田裕毅、野村明成）
28. 大腸癌に対する 2nd line FOLFIRI+Erbix 療法の臨床試験（FLIER）（橋田裕毅、野村明成）
29. オキサリプラチン、ベバシズマブ既治療進行再発大腸癌に対する 2 次治療ベバシズマブ併用 FOLFIRI 療法におけるベバシズマブ至適投与量の第III相ランダム化比較試験（EAGLE）（橋田裕毅、野村明成）
30. 進行直腸癌を対象とした術前 TS-1/CPT-11 併用療法の臨床第II相試験（橋田裕毅、野村明成）
31. 治癒切除結腸癌（StageIII）を対象としたフッ化ピリミジン系薬剤を用いた術後補助化学療法の個別化治療に関するコホート研究（B-CAST）（橋田裕毅、野村明成）
32. 大腸がんにおける KRAS 遺伝子変異率の検討（橋田裕毅、野村明成）
33. EGFR 陽性及び KRAS・BRAF 野生型の進行・再発の結腸・直腸癌に対する FOLFOX 又は XELOX+Erbix 併用療法の第II相試験（FLEET）（橋田裕毅、野村明成）
34. 腹腔鏡補助下大腸切除術における予防的抗菌薬投与方法設定の為の無作為化比較試験第III相試験（C-160）（野村明成）
35. 肝転移を有する治癒切除不能な結腸・直腸癌患者（初回治療患者）に対するベバシズマブ（bev）またはセツキシマブ（cet）併用 mFOLFOX6 療法の検討（BECK 試験）（寺嶋宏明、門野賢太郎）
36. 切除不能進行胆道癌に対するゲムシタビン/シスプラチン/S-1 併用療法（GCS 療法）の第 I / II 相試験（KHB01002）（寺嶋宏明、門野賢太郎）
37. 肝葉切除を伴う胆道癌切除例に対する Gemcitabine（GEM）あるいは S-1 の術後補助化学療法の第 I 相試験（KHB01003）（寺嶋宏明、門野賢太郎）
38. 肝葉切除を伴わない胆道癌切除例に対するゲムシタビンとシスプラチン併用療法による術後化学療法の第 I 相試験（KHB01004）（寺嶋宏明、門野賢太郎）
39. 胆道癌の術後再発症例と非切除症例の予後の違いについての retrospective な検討（KHB01001）（寺嶋宏明、門野賢太郎）

IV. 手術症例数（主な手術）

（注）腹（胸）腔鏡下のものも含む

	低難度手術	件数	中難度手術	件数	高難度手術	件数
食道			食道瘻造設	1	食道切除再建術	7
胃・ 十二指 腸	胃空腸吻合術	6	幽門側胃切除術	32	胃全摘術	27
	幽門形成術		胃部分切除	5	残胃全摘術	4
	十二指腸穿孔部大網充填術	1	胃切除術		噴門側胃切除術	3
小腸・ 結腸	小腸部分切除術（良性）	5	小腸悪性腫瘍手術	2	大腸全摘術	1
	結腸切除術（良性）		結腸半側切除術（悪・良）	34	大腸（亜）全摘術 1 期の吻合	1
	虫垂切除術	31	腸閉塞手術（小腸切除、結腸小範囲切除）	5		
	小腸瘻造設・閉鎖術	9	腸閉塞手術（バイパス術 腸吻合術）	2		
	人工肛門造設・閉鎖術	7	小腸・結腸瘻閉鎖術（腸管切除）	11		
	イレウス解除（腸管癒着剥離術）	9	回盲部切除（悪性）	9		
	回盲部切除（良性）		結腸部分切除術（S状結腸切除 含）（悪）	46		
直腸・ 肛門	痔核切除術（痔核根治術）	1	直腸切断術（良性）		直腸切断術（悪性）	6
	経肛門的直腸腫瘍摘出術	4	直腸脱手術（腹会陰式）経会陰	2	直腸低位前方切除術（悪、良）	12
	直腸脱手術				骨盤内臓全摘術	1
	肛門周囲膿瘍切開術				直腸 S 状結腸切除（前方切除）	5
					腹腔鏡下直腸前方切除術	23
肝	肝膿瘍ドレナージ術（経皮の手技を除く）		肝外側区域切除	4	肝切除術（外側区域を除く）	15
	肝膿瘍切開術		経回腸静脈的門脈塞栓術	2		
	肝部分切除術	6				
胆	胆嚢摘出術	142	胆管切開結石摘出術	5	胆嚢悪性腫瘍手術	3
			胆道再建術	1	胆管悪性腫瘍手術	1
膵			膵嚢胞消化管吻合術		膵頭十二指腸切除術	15
			急性膵炎手術		膵体尾部切除術（悪性）	5
			膵体尾部切除術（良性）		膵全摘術	1
脾		脾摘術	3			
その他	腹部ヘルニア・鼠径ヘルニア手術	122	急性汎発性腹膜炎手術	14	総胆管拡張症手術	1
	限局性腹腔膿瘍手術		腹壁ヘルニア手術	4	食道再建（遊離空腸）	1
	試験開腹術	21	食道裂孔ヘルニア手術		下大静脈腫瘍栓摘出	2
	開腹止血術	2	後腹膜腫瘍手術	2		
	合計	366	合計	184	合計	134

V. クリニカルインディケーター項目

	臨床指標	件数
外科系	腹部外科手術(高難度手術)の実施件数	134 件
外科系	腹部外科手術(中難度手術)の実施件数	184 件
外科系	腹部外科手術(低難度手術)の実施件数	366 件
外科系	腹部外科手術(高難度手術)の実施率	19.6%
外科系	腹部外科手術(中難度手術)の実施率	26.9%
外科系	腹部外科手術(低難度手術)の実施率	53.5%
外科系	腹部外科領域における内視鏡下手術件数(胆嚢、消化管手術など)	232 件 (33.9%)
内科系	ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)実施件数	件
内科系	内視鏡的粘膜切除術件数	件
内科系	肝臓の経皮的局所療法実施件数	件
内科系	肝臓に対する肝動脈塞栓術実施件数	件
内科系	消化管出血救急患者数	人(内入院人)
内科系	消化管内視鏡検査件数	件
内科系	緊急消化管内視鏡検査件数	件

学会発表

1. 八隅秀二郎 第1回膵PerfusionCT画像研究会 2010/4/21(新潟)
2. 八隅秀二郎、千葉勉、上本伸二 肝移植術後胆管吻合部狭窄に対する経内視鏡的治療 第39回日本IVR学総会 2010/5/21(東京)
3. 八隅秀二郎 InterventionalEUS 第45回近畿消化器内視鏡懇談会 2010/7/10(大阪)
4. 八隅秀二郎 K2-Net 2010/7/29(大阪)
5. 八隅秀二郎 困ったときどうする? 膵・胆道癌のERCP 第2回膵・胆道がんセミナーin大阪 2010/7/31(大阪)
6. 八隅秀二郎 第6回O.K.勉強会 2010/9/1(大阪)
7. 八隅秀二郎、貴田雅也、猪飼伊和夫、江川裕人、上本信二、千葉勉 胆嚢摘出術および肝切除術は十二指腸乳頭圧を上昇させるが、肝移植では? 第46回日本胆道学会学術集会 2010/9/24(広島)
8. 八隅秀二郎 北野IBDセミナー 2010/12/8(大阪)
9. 八隅秀二郎 胆膵症例検討会「如何に診断して如何に治療するか」-症例から学ぶ胆膵疾患の診断と治療- 第24回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー 2010/12/19(大阪)
10. 八隅秀二郎 EUS-FNA・胆膵内視鏡関連 第13回近畿消化器内視鏡ガイドライン講習会 2011/1/23(大阪)
11. 八隅秀二郎膵がんの早期診断と高危険群の解明第1回Kyoto Pancreatobiliary Study Group Meeting 2011/2/11(京都)
12. 八隅秀二郎、吉村弥緒、浅田全範、八隅秀二郎、寺嶋宏明、尾崎信弘 膵尾部嚢胞性病変の一例 第10回日韓合同シンポジウム 2011/3/26(韓国)
13. 福永豊和 食道・胃静脈瘤診療の実際 第8回NOLDiC 2010/6/17(大阪)
14. 福永豊和 肝7 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
15. 福永豊和 肝疾患の画像診断 LivercirrhosisUpdate 2010/12/2(大阪)
16. 福永豊和 第9回NorthernOsakaLiverDiseaseConference 2010/12/9(大阪)
17. 福永豊和 第13回関西肝癌局所療法研究会 2011/3/5(大阪)

18. 浅田全範 当院における急性胆道疾患診療フロー 第1回 Keihanshin 腹部救急研究会 2010/10/28(大阪)
19. 浅田全範 FreshmanSession3 胆・膵・その他 第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
20. 大橋真也 Seiji Nakagawa, Shinya Ohashi, Sotai Kimura, Mitsuteru Natsuizaka, Hiroshi Nakagawa, Hiroshi Itoh ZEB1 and ZEB2 promote tumor invasion and EMT in esophageal squamous cell carcinoma 第33回日本分子生物学会年会 2011/12/10(神戸)
21. 大橋真也 Vega ME, Rustgi AK, Stairs DB, Ohashi S, Natsuizaka M, Nakagawa H. "Loss of Notch signaling fosters Barrett's esophagus development in c-myc-Cdx1 expressing esophageal cells." AACR "Colorectal cancer: Biology to Therapy" 2010/10/28 (Philadelphia)
22. 大橋真也 Ohashi S, Natsuizaka M, Kalman RA, Nakagawa H Enrichment of EMT competent cellular subpopulation through ZEB-mediated inhibition of senescence program activated by EGFR overexpression in human esophageal cells. Gastroenterology. 2010 Digestive Disease Week and the 111th annual meeting of the American Gastroenterological Association 2010/5/3 (New Orleans)
23. 大橋真也 Ohashi S, Natsuizaka M, Kalman RA, Yang Y, Stairs DB, Katz JP, Pear WS, Klein-Szanto AJ, Nakagawa H Notch3 activation at the onset of esophageal squamous epithelial differentiation. Gastroenterology. 2010; Digestive Disease Week and the 111th annual meeting of the American Gastroenterological Association 2010/5/3 (New Orleans)
24. 大橋真也 Nakagawa M, Ohashi S, Natsuizaka M, Vega ME, Stairs DB, Klein-Szanto AJ, Diehl JA, Pear WS, Nakagawa H, Rustgi AK Cyclin D1 and EGFR promote invasive growth of human esophageal epithelial cells in concert with impaired Notch signaling. Gastroenterology. 2010; Digestive Disease Week and the 111th annual meeting of the American Gastroenterological Association, 2010/5/3 (New Orleans)
25. 大橋真也 Natsuizaka M, Kalman RA, Ohashi S, Takaoka M, Klein-Szanto AJ, El-Deiry WS, Diehl JA, Herlyn M, Nakagawa H IGF-independent regulation of EMT by insulin-like growth factor binding protein-3 in transformed human esophageal cells. American Association for Cancer Research, 101st Annual Meeting 2010/4/19 (Washington DC)
26. 大橋真也 Seiji Naganuma, Ohashi S, Kimura S, Natsuizaka M, Klein-Szanto AJ, Itoh H, Nakagawa H ZEB1 and ZEB2 promote EMT and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. American Association for Cancer Research, 101st Annual Meeting 2010 2010/4/19 (Washington DC)
27. 高 忠之、廣橋研志郎、牟田優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、大橋真也、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 切除不能胃がんに対する化学療法における予後規定因子の検討 JDDW2010 2010/10/13 (横浜)
28. 高 忠之、廣橋研志郎、牟田優、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、佐久間洋二郎、小田弥生、加藤洋子、工藤寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦寧、吉野琢哉、大橋真也、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 切除不能膵がんに対する GEM/S-1/GEM+S-1 療法の有効性に関する比較検討 第48回日本癌治療学会学術集会 2010/10/30(京都)
29. 高 忠之 高齢者の消化管出血の特徴とその予防 日本内科学会専門医部会教育セミナー 2011/1/29(大阪)

30. 高 忠之 当科における切除不能大腸がんに対する 分子標的治療薬の位置付けとその使用経験 第9回大阪消化器化学療法懇話会 2010/11/13(大阪)
31. 高 忠之 胃4 第86回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2011/3/12(京都)
32. 吉野琢哉” Hiroshi Nakase, Shujiro Yazumi, TsutomuChiba ”Novelanti-inflammatoryeffectoftacrolimusinductionofapoptosisonmacrophageattenuatesimmune-mediatedcolitis DDW2010 2010/5/3(米国)
33. 吉野琢哉 小腸出血における当院の取り組み K2-Net 2010/7/29(大阪)
34. 杉浦 寧、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、山内淳嗣、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、伊藤裕章、八隅秀二郎 当院における早期胃癌に対する ESD の治療成績 第79回日本消化器内視鏡学会 2010/5/15(東京)
35. 杉浦 寧 胃治療への NBI 診断の応用 第3回大阪 NBI セミナー 2010/6/19(大阪)
36. 杉浦 寧、小田弥生、八隅秀二郎胃 ESD 困難例に対するディスプレイ把持鉗子 LA (EndoLifterTM)の使用経験 第85回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2010/10/2 (大阪)
37. 杉浦 寧、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、山内淳嗣、藤田光一、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における大腸腫瘍に対する ESD 治療成績の検討 JDDW2010 2010/10/16(横浜)
38. 杉浦 寧 S. Yazumi, Y. Kudo, Y. Oda, A. Yamauchi, S. Ueda, H. Terazima, N. Osaki USEFULL APAROSCOPY ENDOSCOPY COOPERATIVE SURGERY FOR GASTRIC SUBMUCOSALTUMORS” UEGW2010 2010/10/27(スペイン)
39. 杉浦 寧 NBI を併用した胃 ESD 術前内視鏡診断 第40回近畿内視鏡治療研究会 2010/12/10(大阪)
40. 杉浦 寧、小田弥生、山内淳嗣、八隅秀二郎 当院における早期胃癌に対する ESD の現状と問題点 第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
41. 藤田光一、荻巢恭平、矢野雄飛、廣吉康秀、藤元瞳、氣比恵、松本信之、阿南会美、阿南隆洋、稲垣恭和、松井佐織、叶多篤史、吉永寛、渡辺明彦、菅原淳、向井秀一 ERCP 後膵炎の危険因子と予防についての検討 第79回日本消化器内視鏡学会 2010/5/15(東京)
42. 藤田光一、廣橋研志郎、牟田優、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤寧、山内淳嗣、杉浦寧、吉野琢哉、高忠之、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における経口胆道鏡検査 (POCS) についての検討 第85回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2010/10/2(大阪)
43. 藤田光一 E. Anami, T. Anami, Y. Inagak, S. Matsui, A. Kanouda, A. Watanabe, A. Sugahara, S. Yazumi, H. Mukai RiskFactorsforPost-ERCPpancreatitisandResultofProphylacticPancreaticStent Placement UEGW20102010/10/25(スペイン)
44. 藤田光一、吉村弥緒、浅田全範、八隅秀二郎、寺嶋宏明、尾崎信弘 膵尾部嚢胞性病変の一例 第1回 Kyoto Pancreatobiliary Meeting 2011/2/11(京都)
45. 藤田光一、廣橋研志郎、工藤 寧、浅田全範、八隅秀二郎、吉村弥緒、寺嶋宏明、尾崎信弘 I p 型を呈した巨大胆嚢管癌の一例第54回日本消化器画像診断研究会 2011/2/19(東京)
46. 藤田光一、廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、小田弥生、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 慢性膵炎に重篤な膵膿瘍を合併した一例 第86回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2011/3/12 (京都)
47. 山内淳嗣 食道胃接合部の隆起性病変の一例 第5回 O. K. 勉強会 2010/4/7(大阪)

48. 山内淳嗣 第5回近畿超音波内視鏡研究会 2010/6/12(大阪)
49. 山内淳嗣 胆嚢病変の1例 第13回関西胆膵画像病理研究会 2010/7/2(京都)
50. 山内淳嗣、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、小田弥生、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における胃 SMT 診療の現状 第85回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2010/10/2(大阪)
51. 山内淳嗣、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における緊急下部内視鏡検査についての検討 JDDW2010 2010/10/16(横浜)
52. 山内淳嗣、浅田全範、八隅秀二郎 当院における Interventional EUS の現状 第86回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2011/3/12 (京都)
53. 小田弥生、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、杉浦 寧、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 Helicobacter pylori (HP) 除菌療法が胃発癌に与える影響の可能性についての検討 第96回日本消化器病学会 2010/4/24(新潟)
54. 小田弥生、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における Helicobacter pylori (HP) 除菌療法の現状 第16回日本ヘリコバクター学会学術集会 2010/6/24(京都)
55. 小田弥生、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 早期胃癌内視鏡的切除後の異時性発癌に対する Helicobacter pylori (HP) 除菌療法の効果についての検討 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
56. 小田弥生、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 クロウン病におけるカプセル内視鏡検査の安全性についての検討 JDDW2010 2010/10/15(横浜)
57. 加藤洋子、杉浦 寧、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、小田弥生、山内淳嗣、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、伊藤裕章、八隅秀二郎 当院における経皮内視鏡的胃瘻 造設術 (PEG) の合併症・死亡率の検討 第79回日本消化器内視鏡学会 2010/5/14(東京)
58. 加藤洋子、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、工藤 寧、小田弥生、藤田光一、山内淳嗣、杉浦寧、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 成人腸重積症例の検討 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
59. 加藤洋子、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、工藤 寧、小田弥生、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 成人腸重積症例の検討 JDDW2010 2010/10/14(横浜)
60. 加藤洋子、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、工藤 寧、小田弥生、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 膵腫瘍の1例 第6回近畿超音波内視鏡研究会 2010/12/4(大阪)
61. 加藤洋子 膵腫瘍に対し EUS-FNA 後に膵液瘻をきたした1例 第9回FNA-C l u b J a p a n 2011/2/19(東京)
62. 工藤 寧、廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、

小田弥生、加藤洋子、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 下部消化管内視鏡検査後の出血に対する臨床
的特徴の検討 第 85 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2010/10/2 (大阪)

63. 工藤 寧、廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、
小田弥生、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎、森 友彦、小切匡史 十二指腸乳頭部胆管に生
じた憩室内結石の一例 第 86 回日本消化器内視鏡 学会近畿地方会
2011/3/12(京都)
64. 熊谷奈苗、工藤 寧、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、加藤洋子、小田弥生、山
内淳嗣、杉浦 寧、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎、上野憲
司、多田真輔 当科における EUS 下腭仮性嚢胞ドレナージ術の検討 第 79 回日
本消化器内視鏡学会 2010/5/14(東京)
65. 熊谷奈苗 進行肝細胞癌に対するソラフェニブの有効性および安全性に関する検討
第 93 回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
66. 熊谷奈苗、廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、小田弥生、
加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、高 忠之、吉野琢哉、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 膵癌微小肝転移の診断における造影超音波検
査および EOB 造影 MRI 検査の有用性についての検討 JDDW2010 2010/10/15(横浜)
67. 渡辺昌樹、吉野琢哉、八隅秀二郎 CMV 感染合併した難治性潰瘍性大腸炎における CMV
感染陰性化後の治療法の検討 第 93 回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大
阪)
68. 渡辺昌樹、加藤洋子、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、
工藤 寧、小田弥生、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 ダナゾールが原因と考えられ、死亡の転帰とな
った肝紫斑病の 1 例 第 94 回日本消化器病学会近畿 支部例会 2011/2/5
(大阪)
69. 渡辺昌樹、廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、
加藤洋子、小田弥生、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、高 忠之、吉野琢哉、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 集中的治療により良好に制御されている肝細胞
癌蝶形骨洞転移、肝門部・傍大動脈リンパ節転移の一例 第 13 回関西肝癌局所療法研
究会 2011/3/5(大阪)
70. 佐久間洋二郎、山内淳嗣、八隅秀二郎、多田正晴、寺嶋宏明、尾崎信弘 膵性脂肪織
炎を併発した黄色肉芽腫性胆嚢炎の 1 例 第 191 回日本内科学会近畿地方会例会
2010/6/12 (京都)
71. 佐久間洋二郎、八隅秀二郎、宮内雄也、寺嶋宏明、尾崎信弘 腺腫との鑑別に苦慮
した十二指腸乳頭部癌の一例 第 13 回関西胆膵画像病理研究会 2010/7/2
(京都)
72. 佐久間洋二郎 胆管原発の腺内分泌細胞癌の 1 例 第 6 回 O.K. 勉強会 2010/9/1
(大阪)
73. 佐久間洋二郎、浅田全範、八隅秀二郎、多田正晴、寺嶋宏明、尾崎信弘 胆管原発
の腺内分泌細胞癌の一例 第 53 回日本消化器画像診断研究会 2010/9/4 (福岡)
74. 佐久間洋二郎、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、熊谷奈苗、加藤洋子、
工藤 寧、小田弥生、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全
範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 胆管原発の腺内分泌細胞癌の一例 第 93 回
日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
75. 佐久間洋二郎、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、熊谷奈苗、加藤洋子、

- 工藤 寧、小田弥生、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院におけるB型慢性肝疾患に対する核酸アナログの治療成績とその問題点 JDDW2010 2010/10/1(横浜)
76. 佐久間洋二郎、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における悪性胆管狭窄に対する細胞診診断の現状 第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
77. 牟田 優、山内淳嗣、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、加藤洋子、工藤 寧、小田弥生、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 短期間のステロイド投与により合掌したサイトメガロウイルス腸炎の一例 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
78. 牟田 優 偶発的に腹膜肥厚を指摘され診断に苦慮した結核性腹膜炎の一例 第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
79. 西川義浩、廣橋研志郎、牟田 優、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における肝膿瘍症例に対する臨床的検討 第96回日本消化器病学会 2010/4/24(新潟)
80. 西川義浩、廣橋研志郎、牟田 優、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 膵腫瘍2例のPerfusionCTに関する検討 第28回京大消化器症例検討会 2010/6/5(兵庫)
81. 西川義浩 尋常性乾癬治療中に発症した肝機能障害の一例 第8回 NOLDiC 2010/6/17(大阪)
82. 西川義浩、廣橋研志郎、牟田 優、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、工藤 寧、藤田光一、山内淳嗣、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 乾癬に対するシクロスポリンによって発症したdenovoB型肝炎の一例および当院でのB型肝炎の再活性化への対策の現状 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
83. 西川義浩、杉浦 寧、工藤 寧、廣橋研志郎、牟田 優、佐久間洋二郎、渡辺昌樹、熊谷奈苗、小田弥生、加藤洋子、藤田光一、山内淳嗣、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、上田修吾、八隅秀二郎、尾崎信弘 当院における胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術(LECS)の現状 JDDW2010 2010/10/14(横浜)
84. 西川義浩 当院における膵腫瘍に対する Perfusion CT の経験 第59回近畿膵疾患談話会 2010/10/23(大阪)
85. 西川義浩 主膵管型 IPMN 由来膵癌に浸潤性膵管癌を合併した一例 阪神膵臓外科研究会 2011/2/25 (大阪)
86. 西川義浩、小田弥生、藤田光一、宮内雄也、野村明成、寺嶋宏明、尾崎信弘、八隅秀二郎 腹腔鏡検査が診断に有用であった悪性腹膜中皮腫の一例 第94回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
87. 廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、小田弥生、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 胆嚢癌と鑑別困難だった胆嚢過形成性ポリープの1例 第93回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18(大阪)
88. 廣橋研志郎、佐久間洋二郎、浅田全範、八隅秀二郎、中西保貴、多田正晴、寺嶋宏明、尾崎信弘 管原発の腺内分泌細胞癌の一例 JDDW2010 2010/10/16(横浜)
89. 廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、小田弥生、

工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 特徴的な EUS 所見を呈し、早期胃癌を伴った胃顆粒細胞腫の 1 例 第 29 回京大消化器症例検討会 2010/11/27(滋賀)

90. 廣橋研志郎、牟田 優、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、小田弥生、工藤 寧、加藤洋子、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎、弓場吉哲 特徴的な EUS 所見を呈し、早期胃癌を伴った胃顆粒細胞腫の 1 例 第 86 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会 2011/3/12(京都)
91. 糀谷泰彦、渡辺昌樹、小田弥生、加藤洋子、杉浦 寧、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 魚骨による穿孔性腹膜炎の後、膿瘍形成を来した 1 例 第 191 回日本内科学会近畿地方会例会 2010/6/12 (京都)
92. 糀谷泰彦、渡辺昌樹、小田弥生、加藤洋子、杉浦 寧、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 内科的治療により救命しえた魚骨による穿孔性腹腔内腫瘍の一例 第 93 回日本消化器病学会近畿支部例会 2010/9/18 (大阪)
93. 橋本佳愛子、牟田 優、廣橋研志郎、西川義浩、渡辺昌樹、佐久間洋二郎、熊谷奈苗、工藤 寧、加藤洋子、小田弥生、山内淳嗣、藤田光一、杉浦 寧、吉野琢哉、高 忠之、浅田全範、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 肝原発神経内分泌腫瘍 (NET) の 1 例 第 94 回日本消化器病学会近畿支部例会 2011/2/5(大阪)
94. 福山 緑 特発性血小板減少性紫斑病治療中に発症した肝障害の一剖検例 第 9 回 NorthernOsaka LiverDiseaseConference 2010/12/9(大阪)
95. 橋田裕毅、中西保貴、吉田昌弘、吉村弥緒、高橋英雄、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘 クロウン病に対する手術治療と術前術後インフリキシマブ投与の有用性 第 110 回日本 外科学会定期学術総会 2010/04/10(名古屋)
96. 上田修吾、吉田昌弘、宮内雄也、吉村弥緒、吉富摩美、多田正晴、橋田 裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 Stage IV 胃癌に対する術前導入化学療法と手術療法の意義 第 110 回日本外科学会定期学術総会 2010/04/10(名古屋)
97. 橋田裕毅 ビデオによる手術手技供覧—腹腔鏡下低位前方切除術— 第 10 回京都臨床外科セミナー 2010/04/17(京都)
98. 寺嶋宏明、多田正晴、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、高橋英雄、吉富摩美、橋田裕毅、上田修吾、尾崎信弘 肝中央 2 区域切除は安全な術式なのか? ~自験例から見た留意点 第 22 回日本肝胆膵外科学会 2010/05/28(仙台)
99. 多田正晴、寺嶋宏明、井上義景、中西保貴、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 巨大肝腫瘍切除時に安全性を高めるための工夫 第 22 回日本肝胆膵外科学会 2010/05/28 (仙台)
100. 吉田昌弘、橋田裕毅、井上義景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘 拡散強調 MRI にて高信号を呈した膵インスリノーマの 1 例 第 22 回日本肝胆 膵外科学会 2010/05/28(仙台)
101. 中西保貴、寺嶋宏明、宮内雄也、吉村未緒、高橋英雄、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 十二指腸乳頭部癌に合併した、腫瘤形成性膵炎との鑑別が困難であった膵体部癌の一例 第 22 回日本肝胆膵外科学会 2010/05/28(仙台)
102. 羽山友規子、宮内雄也、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 術後 15 年後に再発し肝浸潤を呈した悪性胸膜中皮腫の一例 第 22 回日本肝胆膵外科学会 2010/05/28(仙台)
103. 糀谷泰彦、多田正晴、寺嶋宏明、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 脳原発 hemangiopericytoma の肝転移に対して肝拡大右葉切除術を施行した一例 第 22 回 日本肝胆膵外科学会 2010/05/28(仙台)

104. S Satoh , H Okabe, S Teramukai, S Hasegawa , N Ozaki , S Ueda, A Tsuji , S Sakabayashi, Y Sakai Early outcome of phase II study of preoperative chemotherapy (CX) with S-1 plus cisplatin for Stage IV gastric cancer (St. IV GC) American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting 2010 2010/06/08 (Chicago, USA)
105. Y.Nakanishi, H.Hashida, Y.Miyauchi, M.Yoshimura, M.Yoshida, M.Yoshitomi, M.Tada, S.Ueda, H.Terajima, N.OsakiMcl-1 expression in cholangiocarcinoma 45th Annual Congress of European Society for Surgical Research 2010/06/12(Geneva, Switzerland)
106. 岩本芳浩、吉田昌弘、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 特異な臨床経過をたどり術前診断が困難であった虫垂 mucinous cystadenoma の1例 第187回近畿外科学会 2010/06/19(京都)
107. 吉川宗光、多田正晴、宮内雄也、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 重症全結腸炎型潰瘍性大腸炎に対し大腸全摘術施行後に門脈血栓症を来した1例 第187回近畿外科学会 2010/06/19(京都)
108. 友滝清一、吉村弥緒、宮内雄也、中西保貴、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 慢性腎不全に対する血液透析治療中に発症した宿便性大腸穿孔の2例 第187回近畿外科学会 2010/06/19(京都)
109. 金政佑典、中西保貴、寺嶋宏明、宮内雄也、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 高度の亀背を有する胆石症の患者に対して、安全に腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行し得た一例 第187回近畿外科学会 2010/06/19(京都)
110. 糺谷泰彦、寺嶋宏明、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 脳原発 hemangiopericytoma の肝転移に対して肝拡大右葉切除術を施行した一例 第52回京都肝疾患懇話会 2010/07/10(京都)
111. 寺嶋宏明、多田正晴、宮内雄也、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、橋田裕毅、上田修吾、尾崎信弘 CUSA と水流滴下式バイポーラによる肝実質離断法のコツと盲点 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
112. 橋田裕毅、吉田昌弘、佐藤正人、中西保貴、吉村弥緒、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘 骨盤臓器脱を考慮した完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術の検討 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
113. 上田修吾、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 高度進行胃癌における S-1/CDDP 併用導入化学療法の有用性 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
114. 川本浩史、多田正晴、寺嶋宏明、中西保貴、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 大腸癌肝転移切除例における術前／術後化学療法の意義についての検討 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
115. 服部健吾、吉田昌弘、寺嶋宏明、中西保貴、吉村弥緒、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘、八隅秀二郎 Roux-en-Y 再建後総胆管結石に対するダブルバルーン内視鏡下 ERCP による十二指腸穿孔の一例 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
116. 野村明成、長山 聡、川村純一郎、河田健二、肥田侯矢、田中英治、小濱和貴、伊丹淳、岡部 寛、坂井義治 下部直腸癌に対する内視鏡外科手術の技術的問題点と解決法 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)
117. 中西保貴、寺嶋宏明、宮内雄也、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 当院における膨潤麻酔下ヘルニア手術～Kugel 法から Direct Kugel 法へ～ 第65回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16(下関)

118. 門野賢太郎、山口和盛、池田博斉、岡部道雄、鶴田 淳、守本芳典、河本和幸、佐野薫、伊藤 雅、小笠原敬三 WDHA 症候群を伴った VIP 産生膵腫瘍の 1 例 第 65 回日本消化器外科学会定期学術総会 2010/07/16 (下関)
119. 橋田裕毅 完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術 第 12 回愛媛肛門疾患懇話会 2010/08/28 (松山)
120. 上田修吾 癌ワクチンと抗癌剤治療により長期生存が得られた進行食道癌症例 第 64 回日本食道学会学術総会 2010/09/01(久留米)
121. 佐久間洋二郎、浅田全範、八隅秀二郎、多田正晴、寺嶋宏明、尾崎信弘 胆管原発の腺内分泌細胞癌の一例 第 53 回日本消化器画像診断研究会 2010/09/04(北九州)
122. 寺嶋宏明、多田正晴、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村未緒、吉田昌弘、吉富摩美、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘、藤本正教、弓場吉哲 中部胆管から肝門部胆管に発生した腺内分泌細胞癌の 1 切除例 第 46 回日本胆道学会 2010/09/25(広島)
123. 小山 幸法、吉田 昌弘、薄井 裕治、高林 有道 低用量イマチニブ投与が病勢コントロールに寄与した、再発GISTの一例 第 15 回近畿 GIST 研究会 2010/10/23(大阪)
124. 吉田昌弘、寺嶋宏明、井上善景、服部健吾、門野賢太郎、吉村弥緒、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 初めての膵頭十二指腸切除〜かっこよくないがきれいに切った手術〜 第 3 回阪神外科 3K の会 2010/11/06(尼崎)
125. 吉田昌弘、上田修吾、井上善景、服部健吾、門野賢太郎、吉村弥緒、吉富摩美、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 当院における GIST の治療戦略 第 18 回日本消化器関連学会週間 2010/10/15(横浜)
126. 廣橋研志郎、佐久間洋二郎、浅田全範、八隅秀二郎、中西保貴、多田正晴、寺嶋宏明、尾崎信弘 胆管原発の腺内分泌細胞癌の一例 第 18 回日本消化器関連学会週間 2010/10/16(横浜)
127. 橋田裕毅、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、多田正晴、上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘 術前インフリキシマブ投与クローン病に対する腹腔鏡手術の検討 第 23 回日本内視鏡外科学会総会 2010/10/20(横浜)
128. 吉富摩美、上田修吾、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 胃内発育型GISTに対する 腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除 (LECS: Laparoscopic Endoscopy Cooperative Surgery) の経験 5 例 第 23 回日本内視鏡外科学会総会 2010/10/20(横浜)
129. 上田修吾、青木雅敏、平山倫子、櫻井恵理子、寺嶋宏明、尾崎信弘、西川博嘉、珠玖洋、影山慎一 行再発食道癌に対するがんワクチン療法臨床試験 第 48 回日本癌治療学会学術集会 2010/10/30(京都)
130. 井上善景、吉富摩美、上田修吾、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 原因不明の小腸大量出血を来し、出血部位の同定に苦慮した 1 例 第 13 回近畿外科病態研究会 2010/11/13(大阪)
131. 井上善景、吉富摩美、上田修吾、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 原因不明の小腸大量出血を来し、出血部位の同定に苦慮した 1 例 第 18 回 近畿外科学会 2010/11/20(大阪)
132. 木村昌弘、吉村弥緒、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 イレウス管留置に起因する腸重積の 2 例 第 188 回近畿外科学会 2010/11/20(大阪)
133. 本田吉孝、宮内雄也、井上善景、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 骨盤後腹膜 ganglioneuroma の 1 切除例 第 188 回近畿外科学会 2010/11/20(大阪)
134. 野村明成、長谷川傑、川村純一郎、河田健二、肥田侯矢、山田理大、大越香江、門川

佳央、高木秀和、田中英治、小濱和貴、岡部寛、坂井義治 下部直腸癌に対する腹腔鏡下自律神経温存 TME の技術的問題点と解決法 第 71 回日本臨床外科学会総会 2010/11/23(横浜)

135. 吉富摩美、橋田裕毅、井上善景、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、野村明成、上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘 術前化学放射線療法にて切除し得た局所進行 S 状結腸癌の 1 例 第 71 回日本臨床外科学会総会 2010/11/23 (横浜)
136. 吉村弥緒、上田修吾、井上善景、門野賢太郎、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 胸腔鏡・腹腔鏡補助下食道亜全摘出術後横隔膜ヘルニアを生じた一例 第 71 回日本臨床外科学会総会 2010/11/23 (横浜)
137. 吉田昌弘、寺嶋宏明、服部健吾、井上善景、門野賢太郎、吉村弥緒、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 両側鼠径ヘルニアに対する Kugel 法の短期手術成績と治療アプローチの工夫 第 5 回関西ヘルニア研究会 2010/12/04(大阪)
138. 井上善景、吉富摩美、上田修吾、宮内雄也、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、野村明成、橋田裕毅、寺嶋宏明、尾崎信弘 出血部位診断に難渋した、原因不明の小腸出血の一例 平成 22 年京都大学外科冬季研究会 2010/12/11(京都)
139. 寺嶋宏明、服部健吾、井上善景、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、尾崎信弘 当院における大腸癌肝転移の治療戦略 京大外科関連施設癌研究会 2011/01/15(京都)
140. 寺嶋宏明 北野病院における肝胆膵外科の現況～肝胆膵外科への思い 第 6 回大阪肝胆膵・移植外科研究会 2011/01/22(大阪)
141. 上田修吾、寺嶋宏明、尾崎信弘、杉浦 寧、八隅 秀二郎 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術 (LECS) K2-Net 2011/01/27(大阪)
142. 西川義浩、吉村弥緒、服部健吾、井上善景、門野賢太郎、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、上田修吾、橋田裕毅、八隅秀二郎、弓場吉哲、寺嶋宏明、尾崎信弘 主膵管型 IPMN 由来膵癌に浸潤性膵管癌を合併した一例 阪神膵臓外科研究会 2011/02/25(大阪)
143. 寺嶋宏明、多田正晴、服部健吾、井上善景、門野賢太郎、吉村弥緒、吉田昌弘、吉富摩美、野村明成、橋田裕毅、上田修吾、尾崎信弘 当科での肝切除の工夫～京大方式 (CUSA+water bipolar) へのこだわりと新規止血デバイスの導入 第 39 回近畿肝臓外科研究会 2011/02/26(大阪)